

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

京都大学理学研究科物理宇宙物理学専攻教官

1. 助手 1 名
2. 物理第二教室宇宙線研究室
3. ガンマ線宇宙物理学
同研究室ガンマ線グループは、TeV、MeV 領域での宇宙ガンマ線観測と検出器開発を行なっている。主に MeV ガンマ線検出器の開発・気球観測を推進していける人を求める。以前の専門分野は問わない。
5. (1) 決定後出来るだけ早く。
7. ○履歴書、○研究歴、○発表論文リスト、○主要論文別刷（3 編）、○研究計画書、○推薦書、または意見を聞ける人 2 名、
8. 2002 年 10 月 15 日
9. (1) 〒 606-8502 京都市左京区 北白川追分町
京都大学大学院理学研究科 物理第二教室
主任 川合 光
(2) 同教室宇宙線研究室 谷森 達
Tel: 075-753-3858
Fax: 075-753-3799
E-mail: tanimori@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp

10. 応募書類は簡易書留にて郵送、封筒に「宇宙線助手応募」と朱筆

国立天文台科学研究員

1. 研究員 2 名
2. (1) 国立天文台光学赤外線天文学・観測システム研究系
(2) 国立天文台三鷹もしくはハワイ観測所
3. 天文機器開発、天文学
4. 文部科学省科学研究費補助金特別推進研究「レーザーガイド補償光学系による遠宇宙の近赤外高解像観測（平成 14～18 年度、代表者：家正則）」に参画し、現有のすばる望遠鏡カセグレン補償光学系の改良とレーザーガイド補償光学系の開発、または補償光学系を用いた観測的研究に従事していただく。研究計画概要と組織等については下記ホームページを参照されたい。
<http://merope.mtk.nao.ac.jp/AdaptiveOptics/>
5. (1) 平成 14 年度中のなるべく早い時期、
(2) お問い合わせ下さい。
6. 理学・工学などの博士取得者、または同等の研究能力を有すると認められる者。
7. (1) 履歴書、(2) 論文リスト、(3) 研究経歴説明書、(4) 研究計画書、(5) 本人について問い合わせできる方（2 名）の氏名連絡先、または推薦書
8. 平成 14 年 10 月 31 日必着
9. (1) 〒 181-8588 三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 光学赤外線天文学観測システム研究系
家 正則
(2)
国立天文台 光学赤外線天文学観測システム研究系
家 正則
Tel: 0422-34-3520
Fax: 0422-34-3527
Email: iye@optik.mtk.nao.ac.jp
国立天文台 ハワイ観測所
高見英樹
Tel: 001-1-808-934-5964
Fax: 001-1-808-934-5984
Email: takami@naoj.org
10. 国立天文台科学研究員（乙）応募書類在中と朱記のうえ、書留にて郵送してください。
11. 給与は国立天文台科学研究員（乙）規定による。

会務案内

2002 年度日本天文学会林 忠四郎賞受賞候補者 および欧文報告論文賞受賞候補論文推薦の お願い

林忠四郎賞選考委員会

標記の2つの賞について、受賞候補者（論文）の推薦をお願いします。

締切は両賞共 2002 年 11 月 20 日(水) (必着) です。尚、締切りが昨年より 1 ヶ月ほど、早いことにご注意ください。下に述べるそれぞれの要領にしたがって記入した推薦書を、

〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内 日本天文学会宛

に郵送してください。なお、封筒には「林 忠四郎賞候補推薦書」または「欧文報告論文賞候補推薦書」と表記してください。とくに返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞共、本会年会の通常総会（2003 年 3 月 25 日、東北大学）にて行う予定です。

2002 年度林 忠四郎賞（第 7 回）推薦要領

この賞は、林 忠四郎博士が 1995 年 11 月に第 11 回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等：

広い意味での天文学（天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む）における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。授賞件数：原則として各年に 1 件。

賞状等：

本賞として賞状、副賞として賞牌（メダル）および賞金（30 万円）。推薦書の形式：表題は「2002 年度林 忠四郎賞候補者推薦書」としてください。前年度と同じ推薦をなさる場合も、あらためて推薦書を提出してください。A4 サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：
氏名（ふりがな）、生年月日、大学卒業年、現

職及び連絡先（電話、fax も）

- 2) 授賞対象とする研究の表題

- 3) 推薦者について：

氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、fax も）、
被推薦者との関係

- 4) 推薦理由の要旨（300 字以内）

- 5) 推薦理由

- 6) 関連する論文のリスト

- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3 編以内）

2002 年度欧文報告論文賞（第 7 回）

推薦要領

この賞は、良い論文が Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林 忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等：

原則として過去 5 年以内に Publications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者（共著の場合はすべての各共著者）に授与する。

授賞件数等：

原則として 1 年に 2 件以内。

賞状を授与する。

推薦書の形式：

表題は「2002 年度欧文報告論文賞候補推薦書」としてください。A4 サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目、著者名、所属、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 論文著者について：氏名（ふりがな）、連絡先（電話、fax も）
- 3) ～ 6) 林忠四郎賞推薦の場合と同じ
- 7) 添付資料として、当該論文のコピー

2002 年度研究奨励賞第 14 回受賞候補者の推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近 5 年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（本年度は 2002 年 1 月 1 日）で 35 歳以下の者であって、原則として 1 年に 1 名を対象とし、賞状、賞牌（メダル）及び賞金（20 万円）を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。

(1) 締切：

2002 年 11 月 20 日(水)

(必着、昨年より 1 ケ月早くなっております)

(2) 提出書類：

○候補者名、現職、生年月日、○研究の表題、○推薦者の氏名と連絡先、○推薦理由、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3 編以内）

(3) 提出先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内 日本天文学会研究奨励賞選考委員会
選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。

2002 年度（第 2 回）天文功労賞候補者推薦のお願い

この賞は、近年多岐にわたっている研究機関外での天文活動、たとえば長年の天体観測や、突発的な現象の検出や的確な通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠外となっている天文観測・研究活動全般です。なお、天文普及に関しましては、この賞の対象とはしないこととしております。対象者は、「天文研究を主たる業務としない」個人および団体で、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、評議員会で決定します。（天文月報第 94 巻第 12 号 632 頁参照）

天文学会の会員の方々からの候補者（団体）推薦を、広く募集します。

A4 紙 1 枚程度で、候補者（団体）名、功績名（1 行程度）、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所（〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内／Fax 0422-31-5487 / jimu@asj.or.jp）にお送りください。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。2003 年度表彰分につきましては、2002 年 12 月 31 日必着とさせていただきます。なにとぞ多数の御推薦をよろしくお願いいたします。

第 1 回の受賞例（敬称略）

長期的な業績

成見 博秋

変光星の目視測光 25 万点

短期的な業績

薄 謙一

1998 年ボン・ウイネッケ流星群の活動を検出
大島 誠人

2001 年のや座 WZ の増光を検出

村岡 健治

P/2001 X3 を 11D/Tempel-Swift と同定

山岡 均（天体発見賞選考委員長）

訃報 内田 豊氏

本会正会員で当学会の元理事長の内田 豊氏が、去る 8 月 17 日に急逝されました（享年 68 才）。謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

理 事 会 議 事 録

日 時：2002 年 6 月 29 日（土） 11 時 05 分～17 時 10 分

場 所：国立天文台（三鷹） 講義室

出席者：田原，松田，郷田，大石，立松，上野，大橋，茂山，松元，吉田，山内 以上 11 名

欠席者：唐牛，松原，加藤，黒田 以上 4 名

有効委任状提出者：加藤，黒田 以上 2 名

他に，東條事務長が参加した。

議事に先立ち，署名人を選出した

議 長：田原博人

署名人：郷田直輝，大石雅寿

報 告

1. 前回議事録の確認（資料 1）

郷田理事より前回（2002 年 3 月 28 日）の理事会議事録が報告され，原案通り承認された。

2. 2002 年秋季年会について

山内理事が準備状況について報告を行った。宮崎市内から会場までの移動のための臨時バスを出してもらうことは可能なので，宮崎交通に多くの参加者がバスを利用する可能性があることと伝えた。また，茂山理事から以下の報告があった。講演申し込み数は 591 件で，口頭発表用会場は 7 つとなった。企画セッションの準備も順調に進んでいる。

3. IAU アジア太平洋地域会議について

上野理事が報告を行った。事前登録数だけで約 500 名であり，当日登録を含めると 600 名ほどの参加者が見込まれる。集録の著作権については天文学会が所有する方向で調整を行っている。

議 題

1. 新入会員の承認（資料 2）

2002 年 3 月 29 日から 6 月 28 日までの間の新入会員リストを郷田理事が紹介し，70 名の正会員，16 名の準会員及び 1 団体の団体会員の入会が承認された。また退会会員，移籍会員等の報告も行われた。

2. 2003 ～ 2004 年度役員候補名簿について（資料 3）

2003 ～ 2004 年度天文学会役員（理事長，副理事長，理事，監事）候補，及び，選挙管理委員の名簿を郷田理事が報告した。原案通り承認し，次回の評議員会に諮ることとした。

3. 2003 ～ 2004 年度各委員会委員候補名簿について（資料 4）

2003 ～ 2004 年度の学会各委員会委員候補の名簿を郷田理事が報告した。原案通り決定し，次回の評議員会と秋季総会で報告することとした。

4. 2003 年度事業計画書案について（資料 5）

2003 年度事業計画書案を郷田理事が説明し，質疑応答の後一部修正の上承認し，次回評議員会に諮ることとした。

5. 2003 年度収支予算案について（資料 6）

2003 年度収支予算案を立松理事が説明した。IAU 記念基金は 2002 年度に廃止となるため，2003 年度

特別会計には掲載していない。早川基金については、予算書上は支出額を増やさないが、選考委員会に「柔軟に対応することを要請する」ことを確認した。その他質疑応答の後原案通り承認し、次回評議員会に諮ることとした。

6. 評議員選挙施行細則の改訂案（資料7）

評議員総数を20名に削減することに伴い必要となった評議員選挙施行細則の改訂案を郷田理事が説明した。質疑応答の後、一部を修正の上承認された。

7. 非会員の年会登録料について（資料8）

立松理事が資料に基づき検討状況の報告を行った。議論の後、非会員の参加費、講演登録料、追加講演料を5000円とすることを決定し、2003年春季年会から適用することとした。尚、本決定を次回の評議員会及び秋季年会で報告することとした。

8. 学会創立百周年記念出版事業について（資料9）

郷田理事から以下の説明があった。ごとう書房の社長が亡くなり、出版費用を寄付するのでお金がなくなるまで主として大学院生向けの専門書の出版を天文学会に行つて欲しいとの打診があった。5月の実務理事会での結果天文学会創立100周年記念出版を行うことを検討した。同時に「天文学会創立100周年記念出版事業小委員会に関する内規(案)」の提示があった。天文学全体の近年の研究成果を網羅した内容が良いのではないかと議論があり、この線に沿って当面理事会でどのような内容、巻構成、各巻の編集者にするのかを検討することし、庶務理事、月報理事、教育理事が協力して10月の理事会までにたたき台を作成することとなった。また理事会が検討している間、小委員会は設置しないこととした。

9. 新賞（天文普及賞）などについて（資料10）

郷田理事が資料に基づき、実務理事会での議論の結果、研究奨励賞選考委員会から提案があった新賞については実行が困難であるとの結論に至ったとの報告があり、理事会としても承認した。

研究奨励賞の改定に関し、人数を若干名に増やすが一人あたりの賞金額を減らすという方法について検討した。検討の結果、授賞者数を若干名（上限は3名）に増員すること、及び、選考の際には学位取得直後のよい研究成果にも着目することを選考委員会に通知することを決定した。また、総会における記念講演は取りやめ、天文月報に授賞対象研究内容を書いた記事を必ず掲載するよう受賞者に依頼することとした。

PASJ論文賞の推薦については自薦も可とすることとした。以上の決定事項を実行するため、研究奨励賞内規と欧文報告論文賞内規の一部変更を行う必要がある。従って、変更案を次回の評議員会に諮ることとした。

以前からの検討課題となっていた天文普及賞（仮称）の新設について、実務理事会で一般財政が厳しいことを考慮してはどうか、天文普及を職業とする人をどのように扱うのか、研究者による天文普及活動を顕彰してはどうかなどの意見が出されたことを踏まえて議論を行ったが明確な結論は得られず、賞の制定は見送ることとした。

10. 企画セッション（コンビーナー制）講演者の講演料について（資料11）

茂山理事が資料に基づいて説明を行った。コンビーナーが依頼した基調講演者に関して、会員は講演一つ分は追加講演料免除、非会員は基本登録料免除、いずれの場合も企画セッションでの講演は通常の口頭発表aとは数えないとの提案を行った。意見交換の結果、コンビーナーが依頼した「非会員」による基調講演に限り基本登録料、講演料は免除することとし、会員の講演料については通常の扱いとすること、また、コンビーナーには招待する非会員は4名程度を上限とするよう依頼することとした。

11. 年会特別セッション（ALMA、独立法人化）の共催について

天文研連からALMAおよび国立大学・大学共同利用機関の独立法人化に関する特別セッションを今秋

の年會中に開催したいとの申し入れがあったことを郷田理事が紹介した。検討の結果天文学会との共催で開催することを決定した。

12. 秋季通常総会議題案について (資料 12)

秋季総会の議題案を郷田理事が提示し、原案通り承認した。

13. その他

(1) 電力線搬送通信 (PLC) に対する懸念について (資料 13)

大石理事から PLC による有害干渉によって短波帯を用いた電波天文観測ができなくなることを防止するため、PLC 導入に対する反対表明を学会として行うことの提案があった。反対することを承認し、意見書としては天文学への影響を強調するよう修正して総務省に提出することとした。また学会 Web にも掲載することとした。

(2) 民間の賞・研究助成について (資料 14)

古在氏からの意見を郷田理事が紹介した。また東條事務長が、学会として推薦する賞・研究助成等のリストを説明した。意見交換を行い、学会の Web に情報を載せることとした。

(3) 名簿の有料化については、見送ることとした。

(4) 林忠四郎賞選考委員会の委員長を「互選」で決めるという現在の内規では最初の委員会の開催に支障があるとの指摘が郷田理事よりあった。今後の円滑な委員会開催のため、庶務理事・事務局が委員に連絡を取ることを確認した。

(5) 秋季年會への旅費補助申し込みが 100 名を越えているため、学術交流費の残額を勘案しつつ補助額を決めたいということを立松理事が報告した。これに関し、申込者が増加しているにも関わらず賛助会員費が減っているため、旅費補助の考え方を見直すべきであるとの意見が出され、議論を行った。補助の考え方について会員 (学生) に周知するよう努力することとした。また、残額 (繰越額) の約半分は今回の補助に支出するということも決定した。

(6) 「男女共同参画についての学協会 連絡会」立ち上げのよびかけが、日本応用物理学会、日本化学会、日本物理学会会長の連名であった。天文学会もこれに参加することとし、加藤理事を担当者として推薦することにした。

(7) 年會での記者会見トピックスは自薦も受け付けることとし、茂山理事が募集案を TENNET に流すこととした。

(8) 次回理事会は 10 月 7 日 (月) に開催することを決定した。

2002 年 8 月 1 日

議 長 田原博人 印
署名人 郷田直輝 印
署名人 大石雅寿 印

お詫びと訂正

9 月号の EUREKA 426 頁本文 9 行目に誤りがありました。訂正してお詫び致します。

誤) 白鳥座の 51 番星

正) ペガサス座の 51 番星

評 議 員 会 議 事 録

日 時：2002年7月13日（土） 11時00分～15時35分

場 所：国立天文台（三鷹） 講義室

出席者：井上，太田，海部，加藤，小山，須藤，千田，高橋，福井，舞原，牧島，吉井，家，池内，木下，
高津，小杉，佐藤（勝），谷口，長谷川 以上20名

欠席者：岡村，柴田，高原，石黒，佐藤（修），中村，野本，林，松田，渡部 以上10名

有効委任状提出者：岡村，柴田，石黒，佐藤（修），野本，渡部 以上6名

他に理事会から田原理事長，郷田理事，大石理事，立松理事，東條事務長が出席した。

議事に先立ち，議長に舞原俊憲氏を，署名人に牧島一夫氏と太田耕司氏を選出した。

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

郷田理事から前回議事録が報告され，承認された。

2. 2002年秋季年会について（資料2）

郷田理事より，2002年秋季年会に関して，現在までに把握している講演申込数（591件），ポスター発表の件数（255件以上），および今回初めて試みる企画セッション（コンビナー制），および年会会場，事前登録等についての報告があった。講演プログラムは現在，年会実行委員会で編集作業中である。さらに，天文研連と天文学会が共催で特別セッションを二つ行う（「法人化と天文学研究の将来」と「ALMA」）。各々の特別セッションに対しては，池内評議員と長谷川評議員からそれぞれ補足説明が行われた。また，加藤評議員から公開講演の宣伝活動について報告があった。

3. 寄付金による学会創立100周年記念出版事業について郷田理事から以下の説明があった。

——ごとう書房の社長が亡くなり，ご遺族より出版費用を寄付するので主に大学院生向けの専門書の出版を天文学会に行って欲しいとの打診があった。理事会では天文学会創立100周年記念出版事業を行うことを決定した。内容については天文学全体の近年の研究成果を網羅する内容が良いのではないかと議論をふまえ，この線に沿って当面理事会でどのような内容，巻構成，各巻の編集者にするのかを検討することとした。場合によっては，編集委員会といった小委員会を今後設ける可能性もある。——

この報告をうけ，評議員会にも随時進行状況を報告して欲しいとの要望を理事会に行った。

4. 電力線搬送通信（PLC）への懸念表明について（資料3）

資料に基づいて大石理事が意見書を総務大臣他に提出した旨，報告した。

5. 新委員会委員名簿（資料4）

2003年～2004年度天文学会各委員会委員候補案を郷田理事が報告した。

6. 学術会議会員候補者の選挙について

先ず，池内評議員より学術会議の体制について総務省のもとで懇談会ができ，そこで改革が検討されている旨の報告があった。8月末までに中間まとめが出る予定である。また，学術会議内部でも検討され，アカデミー的な機能を含め，会員を2500名に増大する案も出されている。会員は任期がなく，やめるときに次の人を推薦する方式とする。ただ，学会が私的に推薦するような仕組みを作っておくことは可能である。このように検討中ではあるが，従来通りの選挙手続きはすすめてもらいたいと指示はされ

ている。

次に、郷田理事より、学会としての今後の学術会議会員候補者の選挙のスケジュールについて次のような報告があった。例年だと、1月中の評議員会に投票結果を諮り、2月中に学術会議に推薦しなくてはならない。そのため、時間的には天文月報8月号に告示を掲載するが、今回は池内評議員からの報告にあるように改革の議論中で、どのような変更があるかもしれないので、8月号での告示はとりやめとする。そして、9月25日（月報11月号原稿締め切り日）までの状況をみて選挙公示を月報11月号に掲載する。そして、立候補・推薦の受付期間、ならびに投票期間を各々例年より若干短縮して、12月下旬に開票できるようにし、来年1月の評議員に推薦候補者を諮ることとする。

7. その他

(1) IAU アジア太平洋地域会議について

池内評議員より、7月2日～5日に開催されたIAU アジア太平洋地域会議について参加者数（462名）、財政状況などの報告が行われた。また、次の開催地を決める常設委員会（14の国からの代表者で構成）をつくることになり、池内評議員が座長となる。今回は、2005年にインドネシアで開催予定である。

議 題

1. 2003～2004年度新役員（理事・監事）名簿（資料5）

2003年～2004年度天文学会役員候補案および選挙管理委員会委員候補案を郷田理事が説明し、原案通り承認された。

2. 2003年度事業計画案について（資料6）

2003年度事業計画案を資料に基づいて郷田理事が説明し、質疑応答の後、一部修正の上承認された。

3. 2003年度収支予算案について（資料7）

2003年度収支予算案を資料に基づいて立松理事が説明し、質疑応答の後、原案通り承認された。学術交流費について高津評議員からの質問をきっかけとして補助のあり方について意見交換を行った。学生の所属機関からの旅費補助がある場合は学会からの補助をする必要がないのではないかとの意見があり、これを支持する意見が出された。議長より、天文・天体物理若手の会代表となっている評議員に対し、若手の会でも議論し、必要なら補助金に対する具体的な提案してほしいとの要請が行われた。小杉評議員より、IAU 京都総会記念基金内規の廃止を来年1月の評議員会で決定すべきとの指摘があった。

4. 評議員選挙施行細則改訂案について（資料8）

評議員総数を20名に削減することに伴う評議員選挙施行細則改訂案を郷田理事が説明した。質疑応答の後、原案通り承認された。

5. 研究奨励賞内規改訂案について（資料9）

研究奨励賞の改定に関して理事会で検討した結果を郷田理事が報告し、受賞者数を若干名（上限は3名）に増員すること、自薦も可とすることを反映する内規改定案の提示があった。また、総会における記念講演は取りやめ、天文月報に授賞対象研究内容を書いた記事を必ず掲載するよう受賞者に依頼することとしたとの報告もあった。人数を若干名に増やすことについては合意がとれたが、福井評議員から本検討のきっかけの確認を求められたと共に、自薦の是非について問題提起があった。自薦を陽に認めると賞の性格を変えるのではないか、自薦するほどの積極的な研究者が望ましい、受賞資格を正会員に制限しなくても良いのではないか、自薦に限る競争的な賞を新たに作るべき、内規改定理由を明示するべき、などの意見が出され、理事会に持ち帰って次回以降の評議員会に再度諮ることとなった。

6. 欧文報告論文賞内規の改訂案について（資料10）

PASJ賞の自薦を可能にする変更について郷田理事が説明を行った。研究奨励賞との関連もあり、自薦

については再検討することとなった。なお、以上2件の賞の議論と関連して、以前からの課題になっていた「普及賞」については理事会としてこれ以上検討しないこととなったとの報告があった。

7. 会員名簿の有料化について

郷田理事が理事会での検討結果として、有料化はしないことにしたとの説明を行い、評議員会としてもその方針を確認した。なお、会員の電子メールアドレスを学会 HP よりパスワード認証を経て検索できるシステムを構築中であるとの報告もあった。

8. 秋季通常総会議題について（資料 11）

郷田理事から秋季総会議題案が提示され、報告事項を追加の上承認された。

9. その他

- (1) 非会員の年会登録料に関し、高津評議員から若手の会で行ったアンケート結果の報告があった。年会の場でポスドクなどの就職斡旋の場を設けてはどうかとの意見が出されたとの報告があった。これに関連して、学位取得予定者には口頭セッションの発表時間を長くすることも可能ではないかなどの意見交換が行われた。
- (2) 民間の賞、研究助成への推薦を行う件に関し、これまでの実績をまとめた資料を郷田理事が紹介し、意見交換を行った。その結果、理事長が指名した WG を作る方向で理事会が検討することとなった。これに関連して研究奨励賞の受賞者数を増やすことに伴い、賞金を減額するのは問題ではないかとの意見を小杉評議員が述べ、意見交換が行われた。また、木下評議員から学会の賞の正式な英語名を制定してほしいとの要望が出され、理事会で検討することとなった。
- (3) 秋の総会で開催する予定の法人化関連の特別セッションについて、学会からも世話人を出して欲しいとの要望が池内評議員から出された。
- (4) 千田評議員から学会の会計年度がなぜ1月～12月になっているのかという質問があり、定款改訂の審議が始まった頃に理事であった小杉評議員が、年会の規模が大きくなり3月の春休み中と9月終わりもしくは10月の初めという大学が休みの時期でないとな年会開催が困難となり、それにあわせて会計年度も変更したとの説明があった。
- (5) 次回の評議員会の日程を2002年10月8日(火)と決定した。

2002年8月2日

議 長 舞原俊憲 印
署名人 牧島一夫 印
署名人 太田耕司 印

編集委員 上野宗孝（編集長）、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、
小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕

平成14年9月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円（本体667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 E-mail: toukou@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子